

## 令和7年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア 蘇我第2教室教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/11/17~R7/12/5> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/11/17~R7/11/25>

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
保護者との信頼関係の形成ができている点	・30分から60分間の保護者との面談を定期的に行っています。また、急なお休みやLINEでの相談があった際には保護者の方と電話で話し、状況を細かく確認するようにしております。	電話・LINEでの相談内容を簡潔に記録し、職員間での共有を綿密に行うことで担当者以外の職員も家庭状況を把握し、一貫性のある支援を行ってまいります。
児童の安全に配慮した考え方が職員間に浸透しており、細かい危険性に事前気が付ける職員が多い点	児童の特性上、配慮が必要な児童が多くおります。すぐに物を口に入れてしまったり、なんでも触ってしまう児童が多くおりますが、そのような環境の中でも安全に行えるプログラムを考えて、事故なく実行することができています。児童の当日の様子を見て臨機応変にプログラムの内容を変更するといった柔軟な対応もできております。	安全に配慮しつつも児童が新しい経験も積めるように多くのプログラムを職員間で考えてまいります。また、今後新しく入ってくる職員に対しても同じ視点が持てるように、ベテランの職員がマンツーマンで教えながら職員の質を上げてまいります。
保護者様の要望や児童の特性に対してなるべく柔軟に対応ができている点	こだわりの強い児童が多く、送迎時の席の場所や送迎の順番の調整が必要な場合が多くありますが、送迎表担当を中心に適切に送迎を行っております。また、保護者様からの要望には柔軟に対応し、肯定的な評価を多くいただいております。	各児童のこだわりポイント（座席位置・順番）を送迎管理シートにまとめて情報共有をし、今より更に安全に配慮した送迎を行ってまいります。

弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
職員の異動に伴い、長期的な視野で児童の成長を把握している職員が少ない点	職員の異動に伴い、長くいる職員と異動してきた職員との間で共通認識をもって支援することに課題があります。また、児童の特性上、信頼関係の形成に多大な時間がかかるので、異動してきた職員と児童との信頼関係の構築に課題があります。	毎日の終礼や毎週のミーティングで、個別支援の振り返りを行い職員間の情報共有を綿密に行ってまいります。スタッフ共通マニュアルや行動対応指針を整備し、異動者が早期に理解できるような体制を整えてまいります。
児童が静かに落ち着いて過ごせる環境の整備が難しい点	児童の特性上、教室内が騒がしくなっている状況が多くあり、大きな声や音が苦手な児童に対しては落ち着いて過ごせる環境を整備することが難しい状況です。	おもちゃ部屋やパーテーションを活用し、少しでも児童が落ち着いて活動できる場所を増やしてまいります。また、イヤーマフを購入し、教室に置いておくことで大きい音が苦手な児童に対して配慮していきます。
他教室と比べて教室環境をより良い方向に変えていくことが難しい点	環境変化に弱い児童が多く、教室環境を変化させることが他の教室に比べて難しい部分があります。例えば教室内に置いてあるロッカーの場所を移動させること一つとっても、ロッカーのすぐ近くをお気に入りの場所としていつも座っている児童がいる、ロッカーを移動させるとガラスが露出し、そこに頭突きをする児童がけがをする恐れがある、といったことを考え、移動させることができないという結論に至ることが多くあります。	小さな変化を分けて導入するなど、変化のさせ方を工夫してまいります。また、机の配置を少しだけ変える、壁面装飾を変えるなど、変化になれる練習を日常的に取り入れることで変化に対する安心の経験を積ませるようにしていきます。